



自分なりの考えを深める学習

今日は、5年生の国語の学習に聞き耳を立ててみたいと思います。どうやら『『弱いロボット』だからできること』という説明文をもとに、「テクノロジーの進歩」についての自分なりの考えを深める学習のようです。うん? 「弱いロボット」って??

説明文によると、最近のロボットは何でもできるものだけではなく、あんまりできないロボットが出てきているとのこと。例えば、ごみ箱ロボットなにのごみを自分では拾えない、ただ手をつないでくれるだけのロボット…。

「なんか、何でもできるからロボットなのに、何もできないのは進歩とは言えないのでは?」

「でも、自分でできるものもロボットにやらせてしまったら、人間のできることが減るよね」

「自分でできることは自分でやらなくちゃ! 頼りすぎたらダメな人間になっちゃう」

なるほど「弱いロボット」にもいいところがあるんだね?

「そう、弱いロボットは人間と人間とつなげる役目も担う。(説明文には) そう書いてある」

「弱いロボットはできないことが多いから、人間同士が助け合うきっかけを作ってくれるんだと思います。最初はダメなロボットと思っていたけれど、弱いロボットっていいね」

なるほど、納得。

私なんかは、テクノロジーに頼りまくって、何もしない老後を謳歌しようかと思っていたんだけどなあ。弱いロボット(=テクノロジー)は、これまでとは違う意味で人を助ける。

作者の意見に促されながら、子どもたちのテクノロジーに対する見方が多様かつ複雑に広がり始めていました。誰一人同じではない「多様性」が貴ばれる授業のありように、やはり、これからの時代は「多様性」が不可欠なのではないかと想いを馳せました。

そもそも、なぜ「多様性」が不可欠なのか。

そんなことを考えているとき、ブロックチェーンという言葉に出会いました。私の不勉強もあり異論もあるかと思いますが、もとは経済の用語だそうで、「多数の構成員に同一のデータを分散保持させる仕組み」だそうです。私なりに解釈すると、このシステムは、これまでの誰か一人に権力が依存する状態ではなく、一人ひとりが責任の一端を担いながら、それぞれがよりよい社会を築こうと取り組む仕組みです。それぞれがよりよい社会を目指すわけですから、ある一人が全体像を把握することは非常に困難です。逆に、独裁的に誰かが操作することも困難。だから、独裁的な不正や改ざんが非常に難しい。

逆に、ある一人の思いで簡単には停止や停滞ができない仕組みでもあります。その上、単純な他者への追随のような無責任な参加はできず、自分なりの考えをしっかりとちながら、自分なりの社会貢献を目指す必要が生まれてくるということです。同調圧力が生まれにくく、新しい考えが多様にあるからこそ切磋琢磨が生まれ、思いもよらない素敵な未来を描ける、ということのようです。

そうか、その切磋琢磨を支えるために、「多様性」が不可欠なのかもしれないなあ。

5年生の子どもたちの学び合いに参加してみて、変化の激しい時代、多様性が不可欠だといわれる理由が少しわかったような気がしました。

